

平成 22 年度 特許ビジネス市シーズ情報

整理番号	事務局使用欄
------	--------

1	シーズタイトル	認知症患者の不潔行為を防止する介護用衣服
2	シーズ提供者 連絡先住所 TEL/E-mail/URL	橋本 由喜江 滋賀県大津市大平 2 丁目 31 番 13-4
3	支援者 (特許流通AD等/連絡先)	滋賀県特許流通アドバイザー 新屋 正男
4	特許番号 等	特許第 4410288 号

技術情報					
5	技術分野	生活・文化	6	機能	介護・福祉
7	利用分野	介護	8	適用製品	介護用衣服
9	本技術の完成度	③実用段階			
10	本技術の特徴				
	① 従来技術・類似技術の問題点				
	<p>本発明は、介護の現場で介護師や家族の人達が最も悩まされてきた認知症患者の不衛生行為を根本的に、確実に解決出来るものであり、介護の現場に大きな福音をもたらす衣服であり、従来技術に類似のものは見当たらない。</p>				
	② 本技術の特徴・効果 / 類似技術との対比				
	<p>1) 衣服の股覆い部を背側に回して、臀部上部で後身頃に繋ぎ止めるものであり、</p> <p>2) 重ね合せ、繋ぎ止め部が上向きに寝た被介護者の体重によって下方に押し付けられるため、被介護者が自身で繋ぎ止めを外すことができず、おむつの中の汚物に触れるなどの不潔行為をすることがない。</p> <p>3) 重ね合せ部が被介護者の臀部の全域を覆うので臀部の違和感を少なくできる。</p>				
	③ 特記事項・添付図面・製品外観図・効果を示す表等				
	装着前・腹側		装着後・背側		

特許情報		
11	発明の名称	衣服
12	特許権者(出願人)	橋本 由喜江
13	特許番号 (公開番号/出願番号)	特許第 4410288 号
	出願日(優先日)	平成 20 年 5 月 13 日
14	海外出願 特許番号等	なし
15 代表的な独立請求項の記載 【請求項 1】 上衣部と、前記上衣部の下端部に接続された下衣部と、を備え、被介護者が着用するための衣服であって、 前記下衣部は、前身頃と、後身頃と、前記前身頃の下端部より延びる股覆い部と、を有し、前記股覆い部は前記後身頃の外面に重ね合わされるように構成され、前記股覆い部及び前記後身頃には、前記後身頃と前記後身頃の外面に重ね合わされた前記股覆い部とを相互に着脱自在に係合するための第 1 の係合手段が設けられ、また、前記股覆い部は前記後身頃の形状に対応した形状を有しており、 前記股覆い部が前記後身頃の外面に重ね合わされると、前記後身頃の大部分が前記股覆い部によって覆われ、前記股覆い部と前記後身頃との重ね合わせ部は、前記衣服を着用した被介護者の臀部のほぼ全域を覆うことを特徴とする衣服。		
16	審査請求有無/審査経緯	審査 有 (審査請求日：平成 21 年 6 月 12 日) 拒絶理由通知：平成 21 年 7 月 15 日 登録査定：平成 21 年 11 月 20 日
17	関連特許 特許番号等	なし
18. 先行・類似技術の調査結果/特許性の判断内容 1) 特開 2004-353102 乳幼児用衣服 上衣と下衣が一体に連結され、かつ下衣部の下側が開放されている乳幼児用衣服で、この部分を前後身どちら側からも繋ぎ止めることができるようにし、乳幼児が仰向けまたは腹這いのどちらの姿勢でも容易に着脱ができるようにしたものであるが、これを認知症介護用衣服に適用した場合、例えば被介護者がベッドなどに仰向けに寝た状態にあるとき、臀部によって下方に押圧される前身頃と後身頃の重ね合せ部の面積が小さいため、係合力が低下するとともに臀部中央部のみ浅く覆うことになるので、被介護者が仰向けに寝た状態で手を伸ばして係合を外し、おむつの中に手を入れてしまう可能性が高い。		
2) 実開昭 57-150503 痴呆者用下着 おむつを使用する痴呆者が着用するための痴呆者用下着であり、前身頃の下端と後身頃の下端とがファスナーによって相互に着脱自在に係合される。しかしながら、このファスナーは痴呆者の股部または下腹部に位置するので、痴呆者が例えばベッドなどに寝た状態で手を伸ばすと、手がファスナーに容易に届いてしまう。従って、痴呆者が係合を解除してしまう恐れが生じ、痴呆者がおむつ内の汚物に触れるなどの不潔行為を確実に防止することができない。		

ビジネスプラン		
19	特許ビジネス市に期待する連携内容	① ライセンス先の開拓 ② 販路拡大・業務提携先獲得
20	ライセンス等の実績の有無	ライセンス実績 なし 引き合い 数件あり
21	各種助成制度の利用状況	なし

22 事業化に関する情報

- ① 追加開発の要否・具体的内容、事業化に向けて解決すべき問題点
既に、試作品を 200 着製作し介護病院などで試用し良好な結果を得ており、性能上は既に完成レベルにある。今後は大量生産のための商品設計とコストダウンの検討を進める必要がある。
- ② 設備投資の要否・設備投資額、提供可能な中間材の規模・コスト
関係企業であれば新たな設備投資は必要ない。

23 本技術を活用したビジネスプラン

- ① 製品・サービスの概要・特徴（従来品・競合品と比較した優位性等を記載）
本製品は、認知症者介護の現場で最も困っている問題の一つを根本的に解決し、介護者にとって最もやりたくない作業をおおいに軽減できる。
- ② 対象とする市場・分野・顧客等（主な顧客、提供できるメリット等を記載）
1) 認知症患者を抱えた家庭
2) 老人病院や介護施設など
- ③ 競合商品・競合相手の状況等
本製品に対抗できるものは現在市場にはない。
- ④ 売上・利益計画（市場規模、推定製品シェア、成長性等を記載）
65 歳以上の認知症高齢者は平成 22 年現在、既に全国で 230 万人の規模となっており、毎年 30 万人余の増加が推計されている。（昭和 60 年の認知症出現率と平成 4 年 9 月の厚生省人口問題研究所の人工将来推計に基づく推計「わが国の精神保健福祉」平成 13 年度版より）認知症患者一人当たり年間 2 着を消費するとすれば年間 460 万着、1 着 2 千円の売価とすると年間売上 92 億円の市場規模であり、そのうち本製品のシェアを 3 割とすれば約 30 億円の年間売上となる。

事業計画:	第1期(初年度)	第2期(2年度)	第3期(3年度)	備考:
市場規模(千円/年)	9,200,000	9,500,000	9,800,000	
製品シェア(%)	5%	15%	30%	
製品売上高(千円/年)	460,000	1,425,000	2,940,000	